

江戸川上流だより

出張所だよりは江戸川河川事務所のホームページ
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa>)に掲載しています。

国土交通省関東地方整備局
江戸川河川事務所
江戸川上流出張所発行
春日部市西金野井886
電話 048-746-0063
2011年 4月11日[第17号]

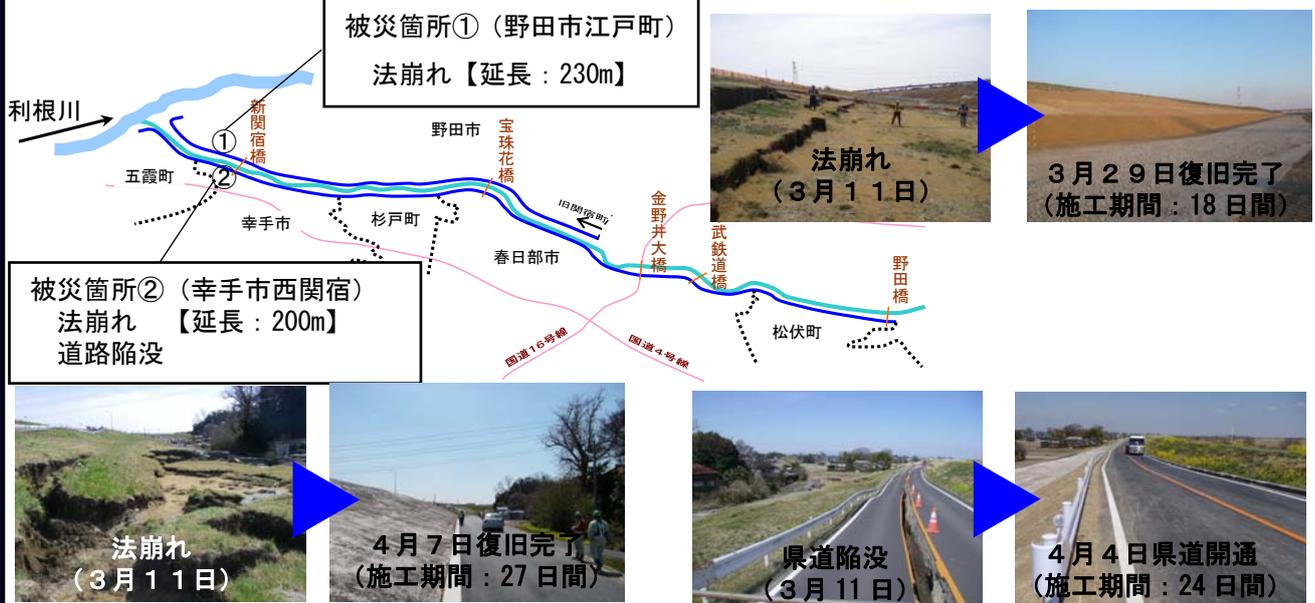
東日本大震災による江戸川堤防の被害とその復旧

去る3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、東北地方を中心に茨城県や千葉県など広い範囲の多くの方々が被災に遭われたこととお見舞い申し上げます。

江戸川の堤防においても多くの箇所が被害に見舞われ、地震の恐ろしさを改めて痛感致しました。本号では、江戸川上流出張所管内にて発生した特に大きな被害箇所の状況とその復旧工事についてご報告したいと思います。

～江戸川上流出張所管内の被害状況と復旧工事～

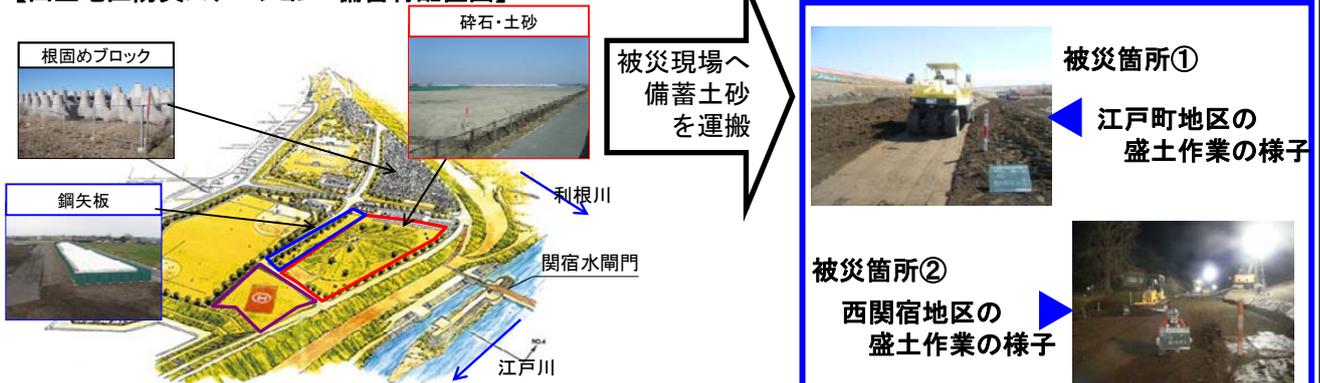
江戸川上流出張所管内の堤防に関する主な被害（陥没・クラック・法崩れ）箇所は下図のとおりです。詳しくは、江戸川河川事務所ホームページ (<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa>) をご覧下さい。



～山王地区河川防災ステーションの活用～

地震災害や洪水による被害に対し、堤防の復旧が早期に行えるよう、復旧に係る資材を備蓄している施設が、利根川と江戸川の分派点である五霞町の山王地区（茨城県猿島郡五霞町山王地先）にあります。今回の復旧作業でも山王地区河川防災ステーションの備蓄材（土砂）を使用することにより短期間で堤防を復旧することができました。

【山王地区防災ステーション 備蓄材配置図】

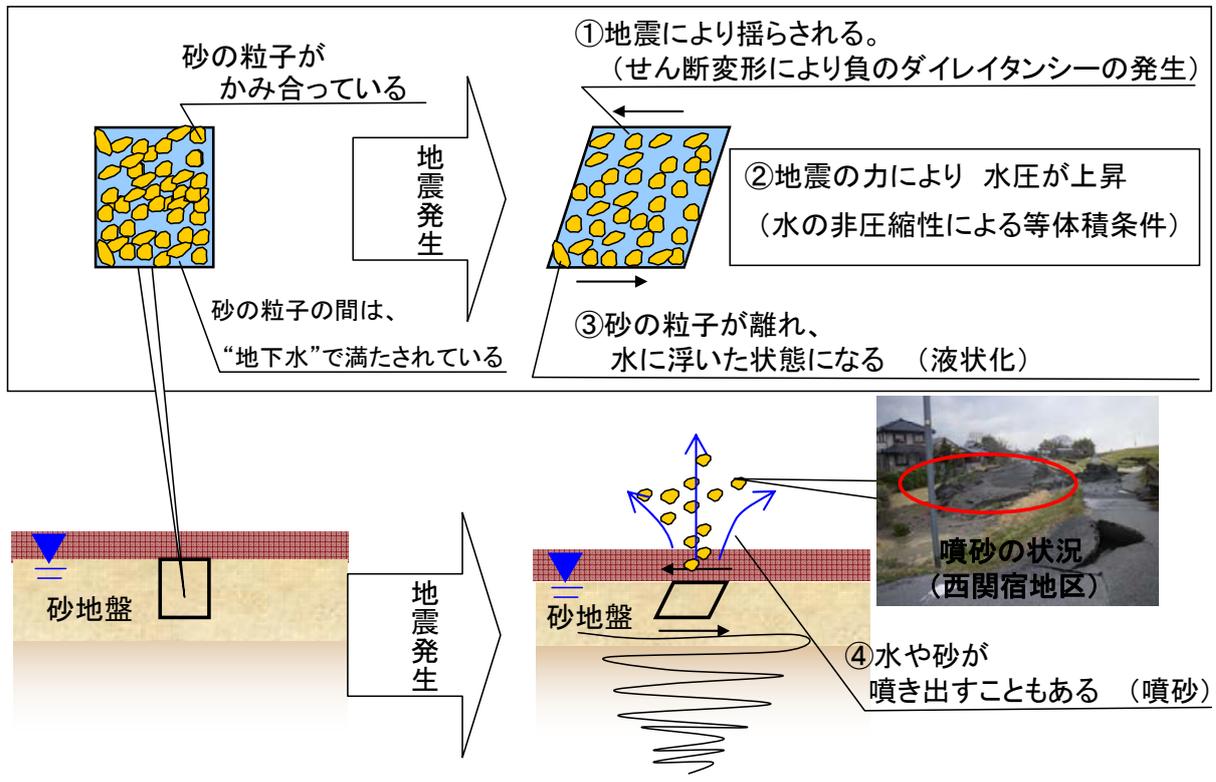


～液状化現象について～

前述した堤防被害は、千葉県のパ安市でも見られた液状化に起因するものでした。液状化とはどういったものなのでしょうか？

液状化とは、砂地盤や砂質地盤などが地震に揺らされることにより、液体状になることです。江戸川の堤防にて生じた液状化では、堤防下に存在した砂質地盤が液状化を起こし、被害をもたらしました。簡単なメカニズムは下記のとおりです。

液状化現象のイメージ図



以上より、液状化が起こりやすい条件として次のことがあげられます。

- ① 粘性土などが少なく、均一な砂質(砂)地盤
- ② 地下水などで、砂粒子の空隙が飽和されていること。
- ③ 密度が小さく、ゆるく堆積していること。

なお、一度液状化を起こすと砂粒子のかみ合わせなどが緩くなり、再度液状化を起こしやすいことが一般的に言われています。

また、盛土の下など常時大きな荷重を受けた状態で、周辺地盤が液状化を起こすと砂地盤が液状化により流動(側方流動)するなどし、法崩れなど大きな被害を伴うことがあります。

出張所へのお問い合わせ

H23. 4. 11 現在

出張所には様々なご相談やご意見を頂いております。(件)

区分	H23年度	H22年度(年間)
河川区域等	3	53
河川利用等	0	7
官民境界等	0	1
河川法手続き	0	3
占用施設	1	5
コブシ開花状況	0	0
その他	0	22
合計	4	91

河川に関するお問い合わせは当出張所まで。

あしがき

本号にてご紹介した災害復旧工事では、これから雨の多くなる時期を迎えるにあたり早期に復旧を図る必要があることから、発災の翌日より24時間体制で施工を行い、短期間にて復旧することができました。

また、防災ステーションの備蓄材の整備もさることながら災害に対する意識も常日頃より心がけることの重要性を再認識したところです。

江戸川上流出張所では、今回の堤防における被災を繰り返さぬよう“再度災害防止”をキーワードに、より一層、河川行政に取り組んで参りたいと思っています。